

Chiba University Hospital



呼吸器診療の最前線へ



Department of Respiriology

千葉大学医学部附属病院 呼吸器内科研修プログラム

2026年度



診療

研究

教育

1969年 千葉大学呼吸器内科学教室として発足。
渡辺 昌平 教授就任。
1986年 栗山 喬之 教授就任。
2008年 巽 浩一郎 教授就任。
2021年 鈴木 拓児 教授就任。

千葉大学 呼吸器内科

当科は1969年(昭和44年)1月に千葉大学医学部において全国初の呼吸器内科単科の教室として設立しました。呼吸器内科単科の教室として長い歴史を持ち、多くの呼吸器内科医を輩出してきました。同門の医師は300人に及び、千葉県を中心とした多くの関連病院があり、全国の呼吸器内科の教室の中でも大きな教室です。

同門の一員となった先生方はそれぞれ関連病院での研修や大学院での研究を通して多くの経験を積み、診療・研究・教育いずれにも優れた呼吸器内科医として多方面で活躍しています。その結果として長い歴史の中で多くの診療・研究業績が生まれています。

毎年多数の新規入局者を迎えており、現在も医局としても益々大きくなっています。当科には他大学出身者も多く、女性医師も多数在籍しています。仕事と家庭が両立できる職場環境づくり、本人の希望に合わせた研修、進学、勤務、海外留学などを応援しています。

2021年度より鈴木拓児新教授のもと新たな体制がスタートしました。折しも新型コロナウイルス感染症の流行で呼吸器内科医の需要がさらに高まりましたが、皆で乗り切りました。千葉県を中心とした呼吸器診療の担い手として今後も優秀な呼吸器内科医の育成に努めていきます。



千葉大学大学院医学研究院
呼吸器内科学教授

鈴木 拓児

呼吸器診療の未来を見据えて

呼吸器内科は肺循環、悪性腫瘍、感染症、炎症、線維症、アレルギー性疾患、睡眠障害など多彩な疾患を対象にしています。

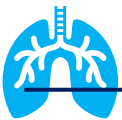
われわれ千葉大学呼吸器内科は50年以上の歴史のある教室で、大学を中心に多くの関連病院と連携して診療・研究・教育をおこない、同門の先輩医師から若い先生達へと広い繋がりを軸に活動しています。

やる気のある若い先生方が我々の一員となって、ともに呼吸器内科診療・研究に従事し、立派な医師として成長していくことを期待しております。

東北大学医学部、東北大学大学院医学系研究科卒業、医学博士
聖路加国際病院、東北大学病院、シンシナティ大学・シンシナティ小児病院医療センター assistant professor,
自治医科大学教授などを経て千葉大学大学院医学研究院呼吸器内科学教授
千葉大学医学部附属病院副院長
日本内科学会総合内科専門医・指導医、日本呼吸器学会呼吸器専門医・指導医・代議員・理事
日本呼吸器学会英文誌(Respiratory Investigation) Associate editor

呼吸器内科

呼吸器内科医はますます必要とされています



呼吸器内科医は内科医の中でも不足

千葉県をはじめ、全国で呼吸器内科医は不足しています。2024年の調査では全国の医師の中で呼吸器内科医は2.2%であり、患者数が多いにも関わらず循環器内科(4.1%)、消化器内科(4.9%)に比較すると少ない状況です。

高齢化の進行や感染症診療の重要性の高まりを背景に、呼吸器内科医に求められる役割は、今後ますます大きくなっています。



呼吸器疾患はさらに増加

現在、肺炎、COPD、肺がんなど呼吸器疾患を有する患者は急増しています。日本の喫煙率は今だに高く、PM2.5などの大気汚染も様々な呼吸器疾患を引き起こす可能性があります。今後も呼吸器内科医が取り扱うべき疾患は多く存在すると予想されます。



関連・関連外病院からの派遣要請多数あり

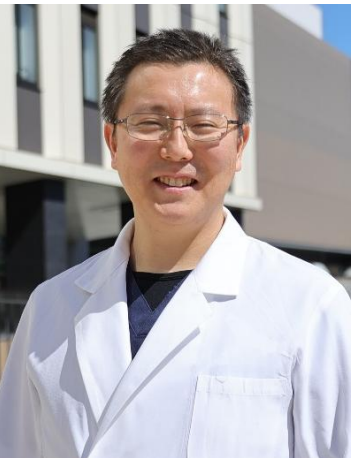
千葉県内、都内の病院からの医師派遣要請が多数あります。大学病院としては、良き呼吸器内科医を育成し、呼吸器内科医としての技術向上、経験集積、専門医取得、博士号取得を応援し、関東地域の呼吸器医療貢献のニーズに答える責務を担っています。

呼吸器内科医として成長できる環境がここに

私が呼吸器内科医を志したのは医師2年目の頃です。呼吸器内科医が従事する内容の幅広さとそのやりがいを想像して、門戸をたたいたように記憶しています。故郷である千葉県で従事したい気持ちから、千葉大学呼吸器内科に入局しました。それから20年以上たった今も、呼吸器内科医として成長し、奥深さを感じながら前向きに従事することができています。

医局長 川崎 剛 (2003年卒)

千葉大学呼吸器内科は、思いやりの気持ちを大切に協力し合い、多様な呼吸器疾患へ専門性の高い診療を届けられるように尽力しています。当科での研修に興味があれば、お気軽にご連絡ください。いつでも歓迎します。



先端医療と働きやすい職場の両立を目指して

当科では、一般的な呼吸器疾患診療に加え、診断の困難なびまん性肺疾患や肺胞蛋白症等の希少疾患、そして肺高血圧症を中心とする肺循環障害にも精力的に取り組んでおり、各分野の経験豊富な医師の指導を受けることができます。また、高度な他科の診療が行われている中で併存している呼吸器疾患の診療にあたることも多く、救急科をはじめ各科とも密に連携をとっており、非常に幅の広い症例を経験することができます。治癒の難しい疾患も多いで

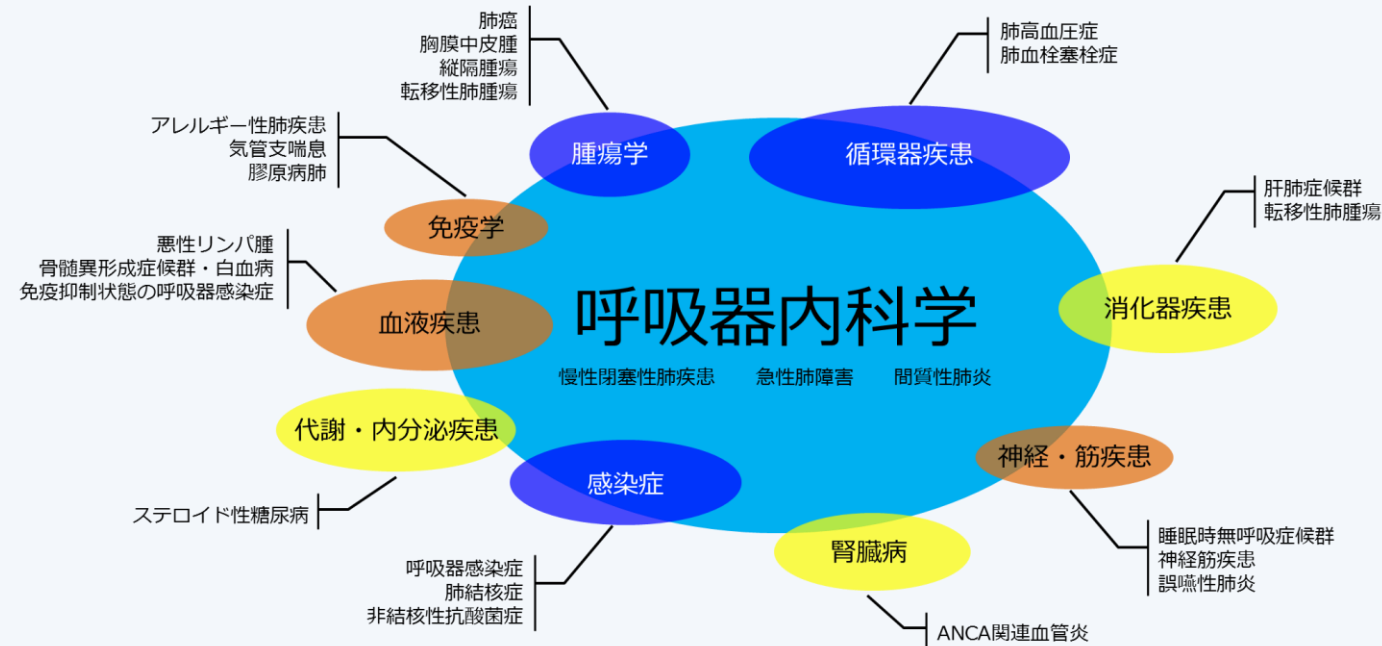
病棟医長 内藤 亮 (2008年卒)

すが、患者さん・ご家族と対話しながら全人的ケアの視点も持ちつつ診療を行っていくことは呼吸器内科の魅力と感じています。

一方、働き方改革の本格的な施行に伴い、現場では効率化が求められています。私自身も臨床・研究そして育児の両立に日々奮闘していますが、専攻医の先生方の希望・多様性に配慮し、先端医療を担う中でもライフワークバランスを意識した職場環境づくりに取り組んでいます。

呼吸器疾患の多様性

呼吸器内科で扱う疾患は非常に多岐にわたります。もちろん呼吸器だけの疾患もありますが、下の図にあるように他の内科系分野とオーバーラップした領域の疾患も数多くあります。これらの疾患は他の内科系診療科と連携しながら診療を行うことで、幅広い疾患を経験することが可能です。



呼吸器内科学と各臓器の疾患との関係と代表的な疾患

ジェネラリストとスペシャリスト

肺という臓器は呼吸を通じて外部と接触しているため、様々な病原体やアレルゲンなどに曝露されるとともに、他の臓器と血流やリンパ流を介して密接に関わっています。そのため、呼吸器疾患を診療するためには呼吸器領域だけではなく、幅広い内科の知識が必要となります。

さらに気道と呼吸を扱う診療科であるため、急変時や救急外来でも柔軟に対応可能であるとともに、緩和治療や看取りといった慢性期の管理も経験できます。

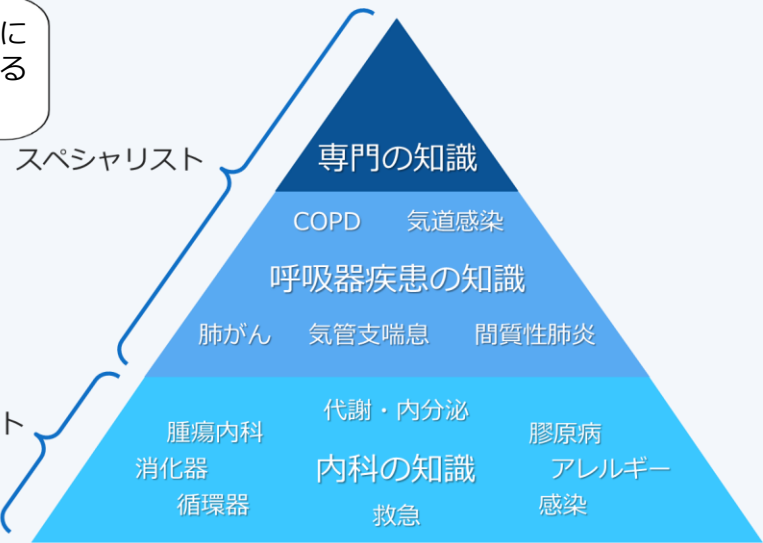
当科では呼吸器疾患を通じて、呼吸器スペシャリストであり、ジェネラリストである医師を育成するよう努めています。

呼吸器の中でもさらに興味のあることを深めることも可能です

スペシャリスト

呼吸器内科医としての経験に付随して内科全般の経験もできます

ジェネラリスト



呼吸器内科専門研修

当科では初期研修後の卒後3年目から関連病院での専門研修が始まります。初期研修医と異なり主治医として入院患者さんを受け持つだけでなく、外来(一般内科外来や呼吸器内科専門外来)、気管支鏡検査、救急外来などにも積極的に関わることになります。

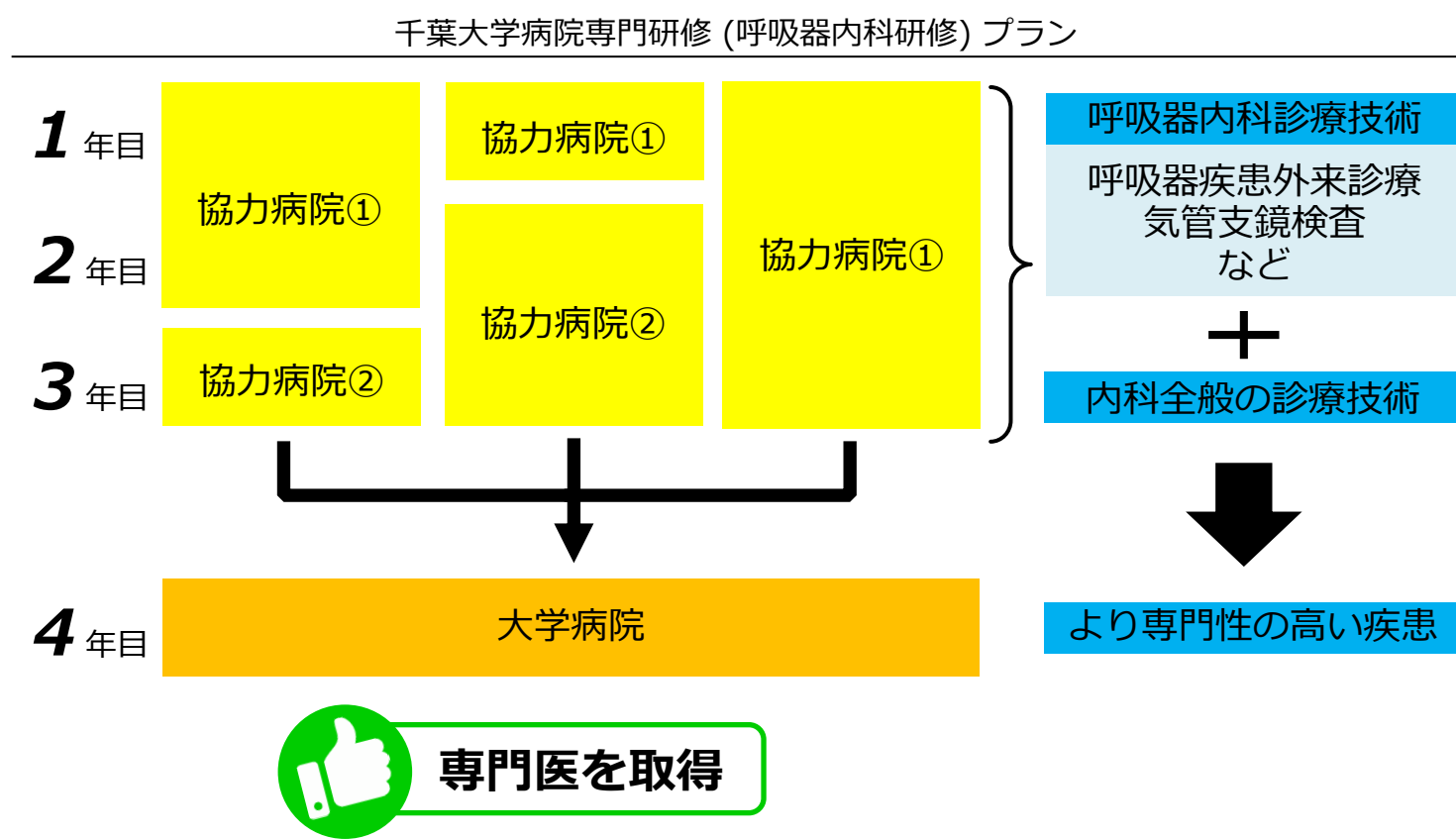
日々の経験を通して、いろいろな事ができるようになる重要な時期ですので、皆さんが自立した呼吸器内科医として成長できるようなプログラムを設定しています。

専門研修プログラム

研修期間：3-4年間

千葉大学病院の専門研修プログラム(内科領域)と連携しながら呼吸器内科としての研修を中心としながら内科専門医を取得できるプログラムとなっています。

1年目から3年目まで1～2施設の関連病院での研修で呼吸器内科医としての基礎を養い、その応用として大学病院でより専門性の高い疾患を経験することで呼吸器内科医としての専門性を高めていきます。関連病院での研修期間については基本は3年ですが、大学院への早期の入学など希望に応じて2年～4年の調整をすることも可能です。



専攻医研修の実際

呼吸器内科の専門研修は検査や外来の割合が少なく、比較的病棟業務に携わる時間が長く取ることができます。そのため、患者さんや疾患とじっくり向き合うことができます。

一週間の予定の一例

	月 曜	火 曜	水 曜	木 曜	金 曜
午前	予約外来	病棟業務	抄読会 新患外来	病棟業務	病棟業務
午後	病棟業務 カンファレンス 病棟業務	気管支鏡 病棟業務	病棟業務	気管支鏡 病棟業務	病棟業務 カンファレンス 病棟業務

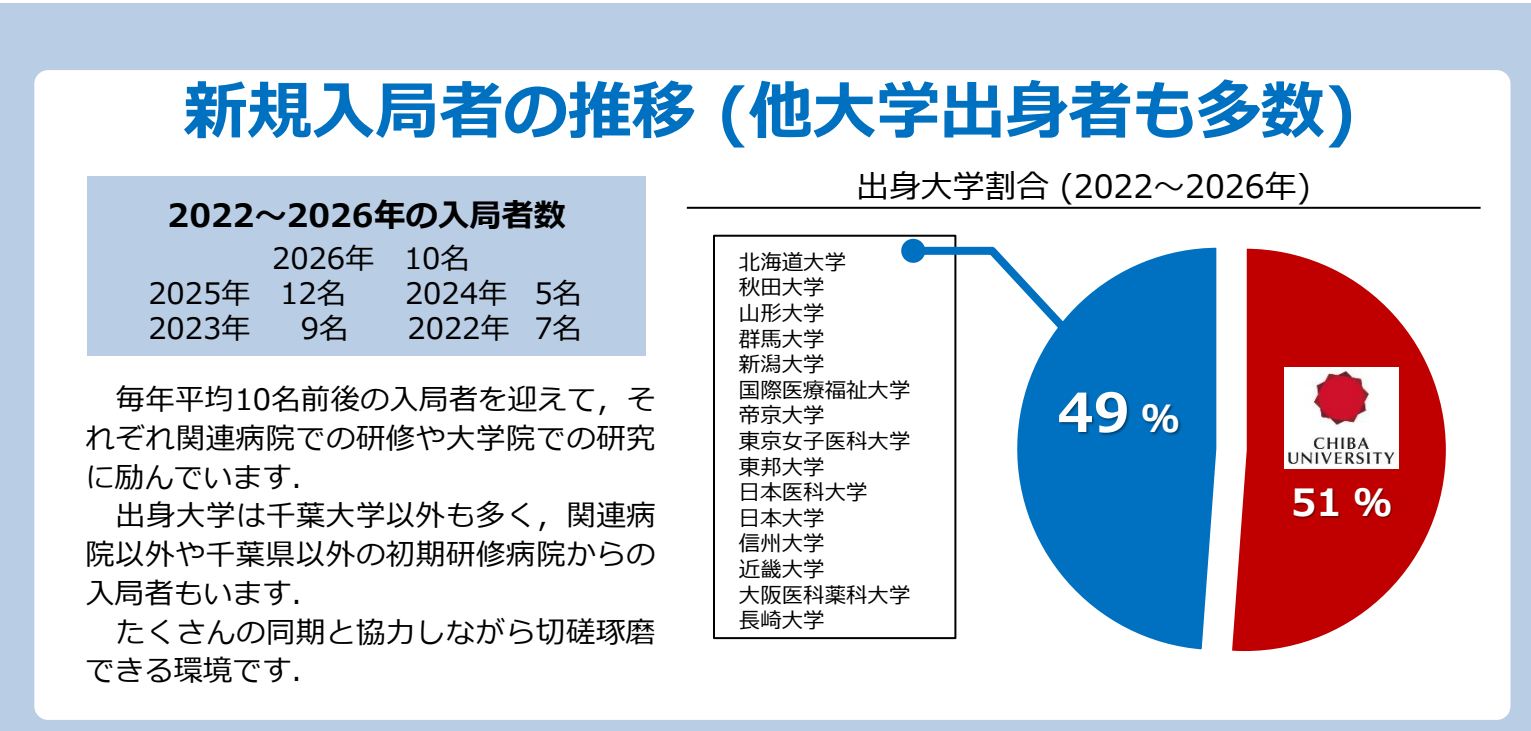


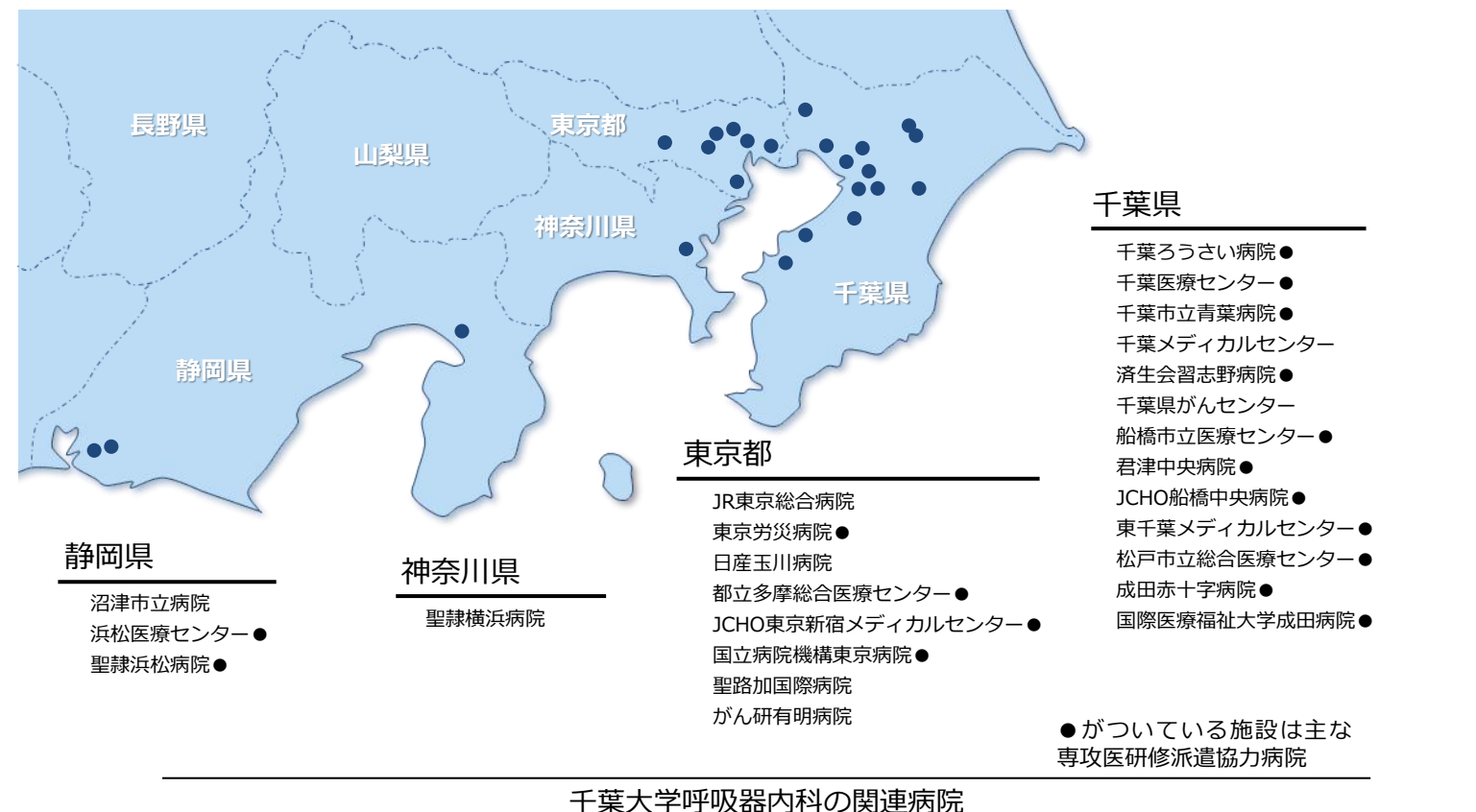
3年間の市中病院での後期研修を通して

君津中央病院 2年 → 済生会習志野病院 1年 → 大学病院病棟医
大学院1年 佐藤 高浩 (2020年卒)

当医局の研修プログラムでは、初期研修修了後の数年間、市中病院に勤務してCommon Diseasesの診療経験を積み、呼吸器内科医としての基礎を学びます。新しい環境で戸惑うこともありましたが、指導医や先輩方の手厚いサポートにより、着実に成長を実感できる日々を過ごせました。

相談しやすい環境なので、診療の疑問を抱え込まずに研修に集中できます。経験できる症例も幅広く、内科専門医の症例にも悩むことはありません。千葉大学呼吸器内科には、成長に繋がる充実した環境が整っています。皆さんと一緒に働けることを楽しみにしています。





千葉大学呼吸器内科の関連病院

特色のある豊富な関連病院

関連病院は千葉県だけでなく、東京都、神奈川県、静岡県にも存在し、いずれも地域の中核病院です。呼吸器内科としての基本的な経験は十分できるとともに、3次救急病院、結核病棟のある病院、間質性肺炎についてより深く学べる病院などそれぞれ特色があります。

当科の研修プログラムでは関連施設から研修がスタートするため、専攻医研修先については関連病院の中から皆さんの希望、経験、興味のある疾患に合わせて紹介できるよう配慮します。

指導医からのメッセージ

楽しく充実した研修を千葉労災病院で！

千葉労災病院 呼吸器内科 高橋由希子 (2012年卒)

千葉労災病院は市原地域の中核を担う施設で、喘息から肺癌まで幅広い呼吸器疾患を主体的に診療できる環境が整っています。

外来・入院ともに多様な症例を経験できるため、専攻医のうちから臨床力を着実に身につけることができます。

また、気管支鏡検査も定期的に実施しており、基本手技を継続的に学ぶことができます。日常診療の中で判断力と対応力を磨ける点が、この施設の大きな特徴です。

勤務は当番制で、メリハリのある働き方が可能です。臨床をしっかり身につけたい方にとって、良い研修環境だと思っています。ぜひ一度見学にお越しください。



指導医 石井先生
専攻医 久保木先生

呼吸器内科研修の5つの特徴

1 呼吸器疾患を中心とした幅広い内科疾患が経験可能

いずれの関連病院でも呼吸器疾患を中心としつつ内科疾患を広く経験できるような研修システムとしています。

2 主治医として外来や気管支鏡検査にも携われる

呼吸器内科では専攻医1年目から主治医として新患外来、気管支鏡検査に携わることができます。責任も伴い大変なことではありますが、患者さんを初診から継続して担当することや外来をマネジメントする能力が身につきます。

3 指導医からの丁寧な指導と先輩専攻医の存在

関連病院ごとに指導医が病棟・外来での研修をサポートできるような体制を構築しています。また、一施設に複数学年の専攻医がいるので時に相談し、時に切磋琢磨できる研修環境となっています。

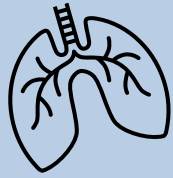
4 学術的成長を支える充実した機会

経験豊富な指導医のもとで、学会発表や論文作成に積極的に取り組める環境が整っています。こうした経験を通じて、国内外で活躍するための着実な基盤を築くことができます。

5 仕事と家庭が両立できる環境づくり

結婚、妊娠・出産、子育てを含めたライフスタイルに配慮した研修・研究ができるようにしています。女性医師が多く在籍しており、様々なロールモデルが見ることができます。

一緒に呼吸器内科医を目指しましょう！



2026年度 千葉大学医学部附属病院 病棟医一同

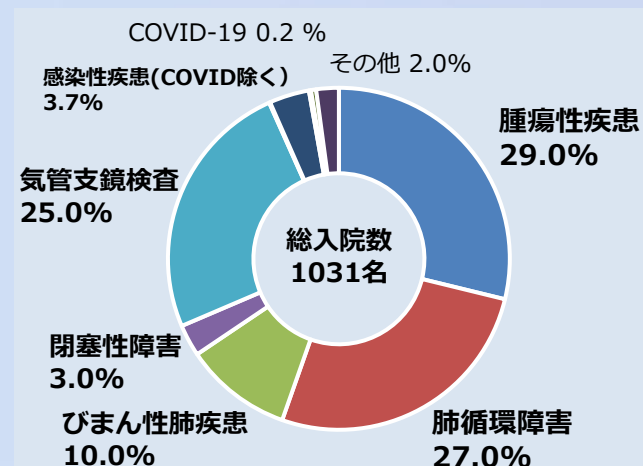
千葉大学病院 呼吸器内科

幅広い呼吸器疾患に対応

千葉大学病院呼吸器内科では入院患者数が年間900～1000例に及びます。肺癌や間質性肺炎といった一般的な呼吸器疾患に加え、肺胞蛋白症や肺循環障害など専門性のより高い疾患まで幅広く対応しています。

人工呼吸管理やECMOを要する呼吸不全症例は救急科と協力し、ICUで高度な急性期医療を展開しています。その他にも様々な診療科と密に連携をとり、入院診療を行っています。

一般的な疾患から稀な疾患、急性期から慢性期と、大学病院ならではの多様性に富む多くの症例を経験できます。



2025年 入院患者の疾患内訳

学生、研修医指導も積極的に行っています



エキスパートの意見も交えながらのディスカッション



他職種との連携も円滑で安心して診療に取り組みます



気管支鏡



気管支鏡検査は週2回に加え、緊急でも行っており、その件数は年間約300件程度になっています。超音波ガイド下の手技(EBUS-TBNA, EBUS-GS)により安全に正確に診断を行うことを心がけています。また、胸部CT用いて作成した仮想気管支鏡や迅速細胞診を併用して検査にあたっており、80%近い診断率が得られています。

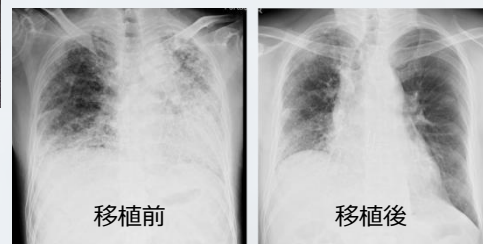
当科では2022年6月よりクライオバイオプシーを導入しており、主にびまん性肺疾患の診断に対して、経験を重ねています。

肺移植



肺移植適応評価チーム

脳死左片肺移植例



当院は本邦の脳死肺移植認定11施設の1つであり、2014年から肺移植医療を提供し、着実に実績を重ねています。難治性呼吸器疾患患者さんにとって、希望の光ともいえる重要な医療であり、呼吸器外科をはじめ多職種と連携しています。

当院では、肺移植適応評価を呼吸器内科が窓口となって実施しており、移植後の体調管理についても呼吸器外科と連携して行っています。さらに貴重なレシピエント肺の検体を用いた研究など実施し、医学、医療の発展にも貢献できるよう努めています。

肺循環



右心カテーテル検査



心エコー検査

当教室の設立当初から肺循環領域に力を入れており、2016年には千葉大学肺高血圧症センター(センター長: 鈴木 拓児教授)を立ち上げ、肺高血圧症および肺血栓塞栓症の診断、治療を各科と連携して行っています。

心エコーや右心カテーテル検査も呼吸器内科で実施するとともに、慢性血栓塞栓性肺高血圧症に対するカテーテル治療を導入するなど、新しい手法も積極的に取り入れています。肺循環領域において常にリーダーシップをとっています。

呼吸器内科医として更なる成長

大学院3年 塩谷 優 (2019年卒)

病棟医を1年務めたあとに大学院に入学し、病棟マネジメント業務の傍ら、びまん性肺疾患を中心に診療に携わりながら、気管支鏡検査に関する臨床研究に取り組みました。指導教官の先生方とともに、研究の立案から論文化まで経験し、国際学会での発表まで行えたことは、大きな学びとなりました。

日々の診療で生まれた疑問を研究につなげ、それを形にできる環境はとても魅力的です。臨床と研究の両方に関わることで視野が広がり、自分自身の成長を実感しています。現在は国内留学で基礎研究にも取り組んでいます。

ぜひ一度、見学にお越しいただき、当科の雰囲気を感じていただければ嬉しいです。

千葉大学医学部附属病院

千葉大学病院は2015年7月に外来棟、2021年1月にICUや手術室などが入る新中央診療棟、さらには同年4月に新しい医学部棟である総合研究棟がオープンしました。

患者さんにとっても広く快適な空間であり、日々多忙な医療者にとっても働きやすい職場環境となっています。

病院としては千葉県地域医療の最後の砦として、高度で安全・安心な医療提供を目指しており、呼吸器内科もその一員としての責務を果たすことを心がけています。

他の診療科もすべて揃っており、様々な難治性合併症をもつ症例にも対応できることが、研修においても非常に勉強になります。

外来棟メインエントランス



新中央診療棟



千葉大学大学院

千葉大学大学院呼吸器内科学

大学院生 29名 (2026年度)

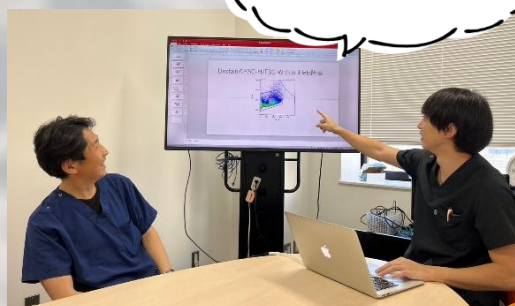
当医局では大学病院で1年間病棟診療を経験した後に大学院に入学することができます。当教室では基礎研究と臨床研究のいずれも精力的に行っており、診療の中で生まれた興味や臨床上の疑問を参考に、希望を聞きながら研究テーマを決定します。

大学院では臨床研究が中心であれば、大学病院での診療に携わりながら、研究を行うことができます。一方で、基礎研究に注力したい場合は、できるだけ研究のみに専念するよう支援します。

在学中は当施設の関連施設への勤務で診療技術の維持とともに、収入についても確保できるようにしています。出産や子育てなど家庭の事情についても可能な限り配慮します。

また、大学院生の間、海外(米国・欧州)の国際学会で発表することを応援しています。

臨床と基礎両方の研究経験ができます



在学中も臨床に携わることもできます



指導医や先輩からの研究に関する丁寧な指導が受けられます



基礎研究



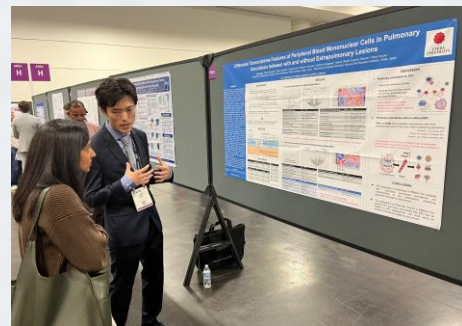
肺高血圧症・間質性肺疾患・COPD・ARDSといった多様な難治性呼吸器病態を対象として、分子生物学的手法を用いた基礎研究を行っています。

さらに学内の他の研究室や他大学の研究室、企業とも積極的に連携し、共同研究を実施しています。

研究テーマ

当院心臓血管外科、呼吸器外科、救急科・集中治療部との連携下に採取したヒト検体を用いた研究、遺伝子組み換え動物などを用いたモデル動物実験や培養細胞実験などによる研究など

臨床研究



大学病院での診療を通じて、幅広い領域の臨床研究を精力的に行っています。発表や論文の書き方なども十分な指導を受けることができます。実臨床で抱いた疑問を解決するような臨床研究を行えるようサポートしています。

研究テーマ

肺循環障害・間質性肺疾患・COPDに対する診断・治療に関する研究、気管支鏡検査に関する研究、胸部CT画像診断に関する研究、胸部悪性腫瘍(肺癌・胸膜中皮腫)の診断・治療(遺伝子治療)に関する研究 など

大学院でしか得られない貴重な経験

大学院2年 田村 啓 (2019年卒)

私は大学院生として、基礎と臨床の両面に携わっています。基礎研究では呼吸器感染症に関して、患者さんから提供いただいた検体を用いた解析を行っています。臨床では呼吸器感染症や肺移植患者さんの診療に従事しています。どちらも大学病院でしかできない貴重な経験で、日々学びがある充実した大学院生活を送っています。

また、病棟勤務を中心としていた頃と比べると、比較的時間に余裕を持てるようになりました。研究会や学会での発表、セミナーへの参加など、これまで参加できなかった学びの機会を得ることができています。

臨床・基礎・家庭などバランスよい生活を送りたいと感じている方は、ぜひ千葉大学大学院呼吸器内科学への進学をご検討ください。



積極的に発表しています



教育研究



当教室では医学生、研修医に対する呼吸器診療の教育についても積極的に行っており、理論に基づいた効果的かつ効率的な教育手法についても学ぶことができます。

実際に行った教育について、その効果を検証することや学習者についての調査、解析を行い、研究として報告しています。

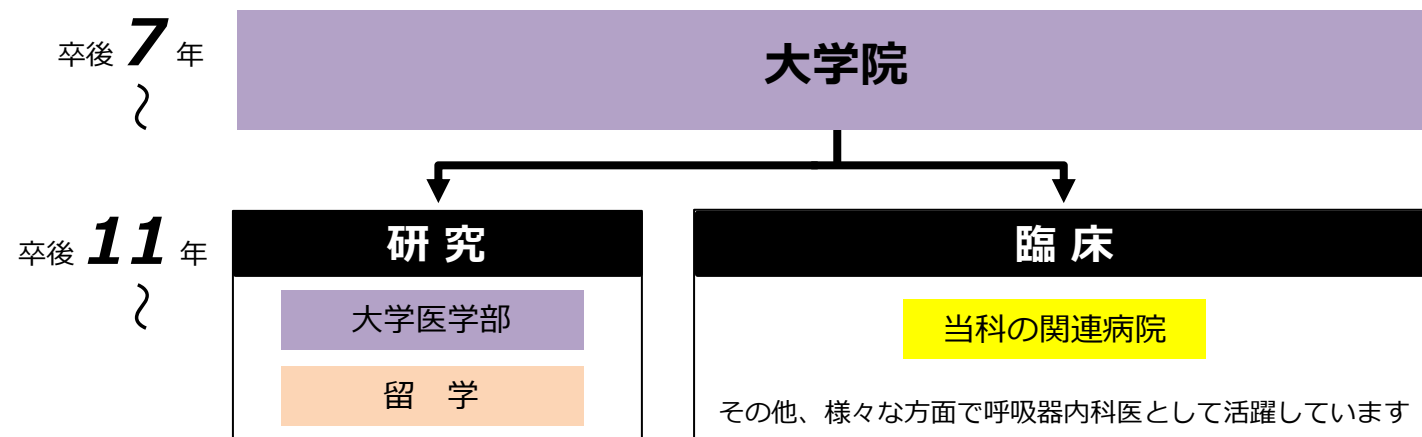
研究テーマ

呼吸器内科臨床実習および初期研修における各種教育方略の効果検証、胸部聴診教育方略の開発、EBM(Evidence Based Medicine)教育方略の開発、人工呼吸管理教育方略の開発、呼吸器内科臨床研修医の二一ズ評価 など

キャリアプラン

卒業後については大学で研究・臨床・教育で活躍する，海外留学をする，または関連病院や関連外病院で呼吸器内科医として活躍する，開業しプライマリケアに従事するなど様々な選択肢があります．キャリアプランに合わせてそれぞれが最大限に活躍できるように応援していきます．

呼吸器内科医はスペシャリストであるとともにジェネラリストであるため，どのような進路に行っても活躍が可能です．また，本人の興味を生かして呼吸器専門医としてだけでなく，腫瘍専門医や感染症専門医など自分の得意とする分野で大学や市中病院でその能力を発揮している先生方も多くいます．



留学

当科では大学院卒業後に主に米国の大学を中心とした研究施設に留学することができます．近年ではNIH(ワシントン)，ネブラスカ州立大学医療センター，コロラド大学，ウィスコンシン大学，カリフォルニア大学ロサンゼルス校，イリノイ大学，パリ大学国立肺高血圧センター，ヴァンダービルド大学，アムステルダム自由大学などに研究留学をしています．現在もカナダ トロント大学に1名が留学しています．留学に興味がある方は留学経験のある医局員から様々なアドバイスを受けることができるので気軽に相談して下さい．

カナダ ケベックから

山本 慶子 (2009年卒)

私は2024年9月まで4年間カナダ ケベック州にあるラバル大学 肺高血圧症センターで肺高血圧症の研究を行っていました．

本研究室は膨大なヒトサンプルを使った研究ができる世界有数の施設です．そして，動物とヒトのデータを同時に組み合わせた研究をするという大変貴重な経験することができました．また，研究を通じて臨床への理解がさらに深まることも実感しました．

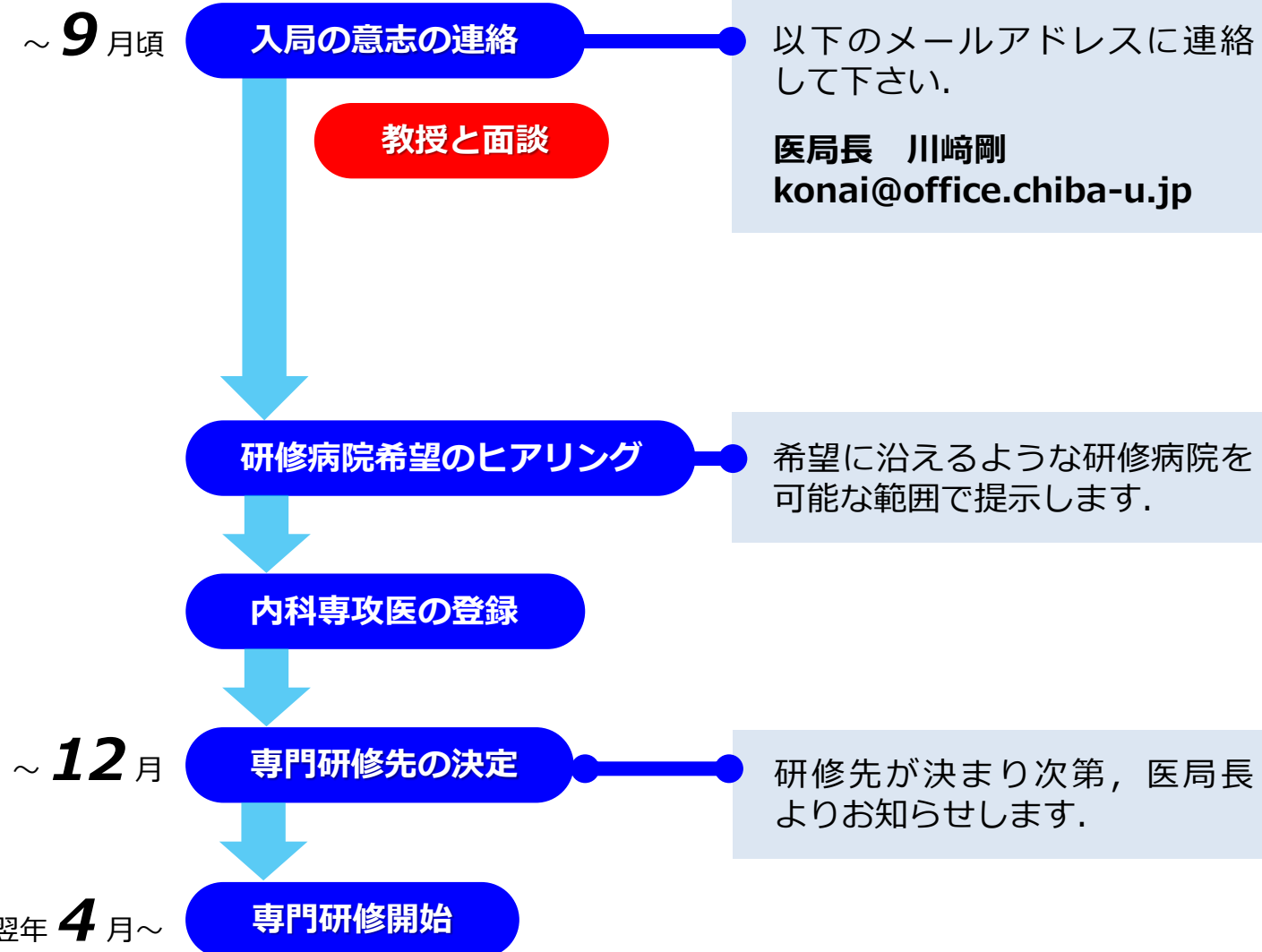
カナダといえどフランス語圏なので，フランス語も習得できます．新たに出会った素晴らしい仲間と新しいことを学ぶことができる充実した日々でした．

入局を希望される方へ

入局までの流れ

入局から専攻医研修開始に向けての流れは以下のようになります．

入局を希望される方は下記に連絡をお願いします．当科の専攻医研修は関連病院での研修から始まるため，皆さんと相談をしながら研修先を決めていきます．入局の意志の連絡には期限はありませんが，早めに連絡いただく方が色々ご希望を聞くことができます．内科専攻医の登録のためには **9月中まで** が目安になります．



研修プログラム責任者・連絡先

責任者 鈴木 拓児 (教授)

医局長 川崎 剛 (診療講師)

konai@office.chiba-u.jp

TEL : 043-222-7171 (内線 5471, 5472, 5473)

質問や見学なども常時受け付けておりますので，気軽にご連絡ください．

Access Map



● JR千葉駅から

東口・7番のバス乗り場から「南矢作」または「大学病院」行のバスに乗り、「大学病院」で下車。(所要時間約10分)

● JR蘇我駅から

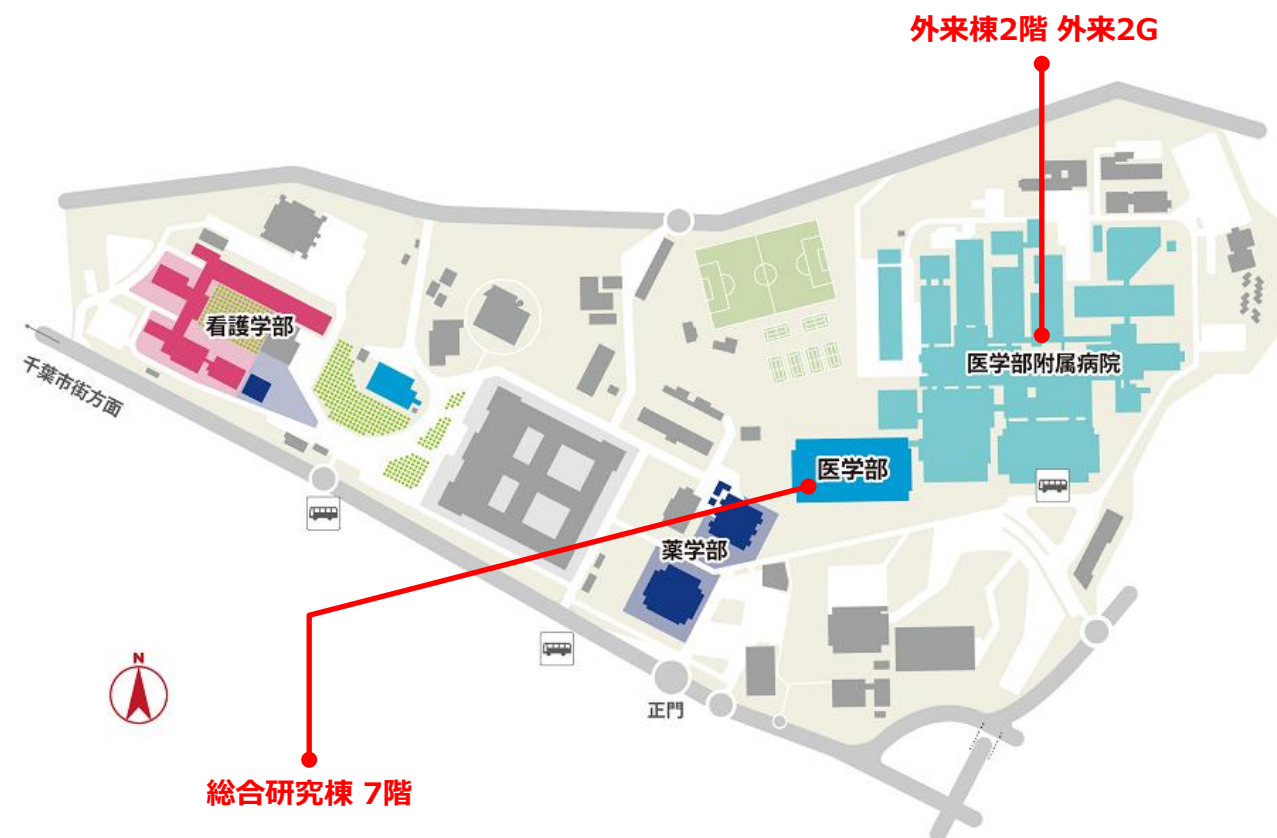
東口・2番のバス乗り場から「大学病院」行のバスに乗り、終点「大学病院」で下車。(所要時間約15分)

● 京成電鉄 千葉中央駅から

タクシーをご利用下さい。(所要時間約10分)

● 車で来られる方へ

本院駐車場は、駐車スペースに限りがありますのでなるべく電車やバスなどの公共交通機関をご利用下さい。



千葉大学 呼吸器内科

<http://www.m.chiba-u.ac.jp/dept/respir/>

